

第 5 回 加賀温泉駅施設整備検討委員会 議事録

■会議概要

- ・日 時：2017年12月1日（金）13:30～
- ・場 所：市民会館3階 第13会議室
- ・出席者：（委員）

出欠	所属・職	役職	氏名
出	金沢工業大学教授	委員長	水野 一郎
欠	金沢大学教授	副委員長	高山 純一
出	加賀市商工会議所都市政策委員長	委員	竹内 和良
出	山中温泉観光協会会長	委員	上口 昌徳
出	山代温泉観光協会会長	委員	萬谷 正幸
出	片山津温泉観光協会会長	委員	鹿野 祐司
出	加賀商工会議所女性会会長	委員	丸谷 朱美
出	加賀市美術作家協会理事長 画家	委員	長谷川 清
出	古場田デザインスタジオ プロダクトデザイナー	委員	古場田 良郎
出	加賀まれびと交流協議会	委員	師池 敬子
出	かが緑化研究会会長	委員	井野上 盛光
出	山代温泉旅館協同組合理事長	委員	新滝 英樹
出	加賀まれびと交流協議会副会長	委員	小中出 佳津良
出	石川県都市計画課長	委員	二塚 保之 (代理 宇野 和義)
出	金沢工業大学教授	アドバイザー	蜂谷 俊雄

(事務局) 加賀市 新幹線対策室 石川県交通政策課 株式会社日本海コンサルタント 金沢計画研究所	眞田部長、高本課長 中野室長、屋後参事、寺山係長、野崎、山本 西川氏 小滝、小坂 北出、坂田
--	--

■意見概要

(1) 駅舎デザインについて

- ・今後の市民意見公募と市民公開シンポジウムの意見も踏まえて次回委員会で決定することとするが、本委員会では以下のような意見があった。

A案) 古場田、師池、新滝、萬屋、竹内、丸谷？

- ・落ち着いたデザインでよい。
- ・額縁が施設全体を小さく見せているので、横の縁を取って格子を左右に伸ばせるとよい。
- ・格子が用いられている正面のみが強調されているので、その両側の壁面も同系色になるとよい。
- ・このモチーフをアビオや美術館まで連続させると一体感が出る。
- ・格子部分の清掃等の維持管理は大変であり、それも踏まえてデザイン調整できるとよい。

B案) 井野上、長谷川、鹿野？

- ・橋立重伝建も切妻屋根でありB案が最も加賀らしい。A案は小松のような感じ。
- ・伝統集落と自然を取り込んでいることがよい。
- ・インパクトがあってよい。
- ・個性が強いデザインなので、これをアビオや美術館まで連続させるのは難しいと思う。

C案) 小中出

- ・他駅にない色合いであり、九谷焼を世界に発信できる。リズム感もある。環境空間デザインの選択肢も増えるのではないかと。
 - ・取っ手つけた感じがする。
 - ・五彩や工芸の質感を表現するには、駅舎壁面で使用するのではなく、舗装面や内装で使ったほうがよい。
- ・どの案であれ、色などの微調整は機構側に相談していく必要がある。
 - ・駅舎北側のデザインが不明であり、情報収集できるとよい。
 - ・観音さんの見え方をチェックしておく。

(2) 環境空間デザインについて

- ・駅舎デザイン決定後に検討する。
- ・下はクローズしてインテリア化している。

■会議詳細

1. 水野委員長挨拶

お久しぶりでございます。第4回からだいぶ時間が経っておりますが、みなさん新聞等でご存じのように、加賀温泉駅の3案が運輸機構より示されました。加賀温泉駅だけではなくて、福井県の3駅と小松の案も出てまいりました。そんな中で各駅が3案の中から選択をするという、そういう時期になりました。今日皆さんと一緒にこの3駅について検討しながら、今までの予定ですと市民集会も開いて、市民にもこの3案を見てもらってと思って、今事務局と一緒に考えております。その後、またこの検討委員会を開いて、ここで正式に決定しようかというふうに考えております。それに合わせまして、前回まで検討して参りました、駅前広場の検討についてはその後にしてまいりたいと思っております。そんな段取りで今日進めたいと思っております。

ちょっと話はそれますが、私はずっと金沢駅やっていた関係もありまして、今年、今年度3年目ですけども、新幹線影響評価検討委員会というのがありまして、その座長を務めてまいりました。その時に10年経った長野とか新潟の方がだんだんストロー現象で、少し弱まってきております。金沢は今観光で非常に伸びておりますけども、基本的に人口や雇用の力の増減についてはプラス微増であって、ストローか逆ストローかはまだ分かっておりません。これはたぶん5年から10年経たないと分からない、そんな状況でございます。ですから今回のこの検討、このひと月ふた月の間の検討は非常に加賀市にとって、重要だと思っておりますので、みなさんと一緒にゆっくり考えたいと思っております。先日福井にまいりましたら、福井の駅前広場にガラスの集会所が、というか広場ができており、全天候型の広場ができております。そこでいろんなイベントをやっているのをごさいます。そんなことも含めて、各駅が趣向を凝らしてくる、そういう時期ですので加賀温泉駅もみんな考えて、これが加賀温泉駅だということにしたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

2. 中野室長より、駅舎デザイン資料説明のあと、橋上駅検討結果報告

- ・中野) 在来線の改札に関連したところで、在来線の駅舎、以前は地下駅について検討しました。それにつきましてはいろいろと問題があるということで、できないという結果を得ております。また前回第4回検討委員会では、橋上化の施工について可能性があるのではないかとということで、検証することとなっております。在来線の駅舎の工事につきましては、JR西日本が行うこととなっておりますので、施工の可能性についてJR西日本金沢支社に確認しております。その解答は6月9日にいただいております。私の方でその理由、まず先に結論からいいますと、橋上化については、できないということで、JRから回答をいただいております。

その理由についていくつかあります。1つめの理由としましては、在来線の工事を行う時期について、新幹線の工事、市が行う駅周辺施設の整備の工事が同時期となります。そうしますと、駅周辺の限られた土地の中で、工事のために必要な敷地を確保することが不可能ということで、できないということが1つめであります。また2点目ですが、駅を橋上化する、橋上駅をつくる際には、ホームへ降りる階段を設置しなければいけません。その階段が降りる箇所がちょうど地下から上がってくる、ホームへあがる所と丁度同じような近い位置にくるということで、旅客の安全を確保することができないということも一つの理由となっております。また、これらの工事を行う上での課題、今言った2点の課題が解決しても、加賀温泉駅のような在来線と新幹線の工事が併設する工事、このような場合には、設計・工事には少なくとも6年以上かかるということで、平成34年度末までに在来線の駅、橋上駅をつくることは工期的には、無理だと言うことで聞いております。またお金や人をつぎ込んで集中的に工事をすれば可能ではないかというご意見もあるかと思いますが、それにつきましてはJRとしましては、線路、駅舎などの並行在来線の施設、これらについては補修等をしながら、修繕のかからないような形で、IR、石川鉄道に財産を移管する、ということになっておりまして、安全・安定運送できるようにJRとしては、そちらの方に注力したいということで、加賀温泉駅だけに、工事を集中することはできないといった回答をいただいております。以上のような理由からJR側としては、平成34年度末までの、新幹線開業までの在来線の駅を橋

上化する、橋上駅をということは、できないということで回答をいただいております。
そうしますと、橋上駅というのは、新幹線のホームから改札をくぐって、階段を上がって、エスカレーター等を上がりながら、上に駅舎ができるので、こういったかたちで、南北自由に行き来できるようなのが橋上駅ということで、考えておりました。今回JRからはこれは無理があるということで、聞いておまして、それではどう南北の連絡をするかといったところで、従来から言っておりました地下通路、こちらの地下通路を現在あるわけですが、それを改修いたしまして、こちらの方を自由に行き来できる通路といたしまして、自由通路化したいということで考えております。

- ・水野) 実は検討委員会のあと、市とJRが何回か交渉しました結果がこの途中経過でございまして、その報告がなかったので、入れさせてもらいました。結局どうなったかといいますと、JRのこの在来線のための事務所が南口にも北口にもございまして、ここで切符をもぎって入っていくというそういうことになります。そうすると駅とこっちを行き来するときに、こちらの道で、行き来すると。一般的にこれを地下の駅にすれば、この通路は自由通路になっていくのではないかとこの考え方でいったわけですが、ここに駅舎があってここで降りてくればいいというふうに考えて、地下につくったらどうかと言ったら、それは在来線を通しながら、地下駅をつくるのは不可能に近いということ。だからこの上でやったらどうだという提案をしたのですが、それもここ、ここ、ここ、それから仮設の駅がここにありますけど、そういうプログラムの中で大変無理があるということでNOとでました。その関係でIRに移ったら事務所が2箇所できて、乗り降りするとそういう風になったわけでございます。いろいろ市長さん現地で掛け合って頂いたんですが、結局そういうことでこのところはいまこの図のような形になっております。それはこの検討委員会のあとの作業でしたので、報告として付け加えておきたいと思っております。

3. 水野委員長より、駅舎模型をもとに3案の解説

- ・水野) 中心がずれている。この心に駅前広場の心を合わせてある。心どうしがずれている。金沢もそうで、鼓門の心と高い心はずれている。
 - 萬屋) わざわざずらしたのか？
 - 水野) いや、これはここしかないんです。この鉄道のカーブとか、いろんな関係でこれをこうやってくれという要求もしたんですけども、これは不可能だと。金沢駅も下をつくってましたから。駅の相似と駅舎の心とが合わなかった。ほとんどの駅はあってないですね。福井も富山も合っていません。
- ・師池) A案は、新幹線が入ってきて降りた時に、この紅殻の格子から外が見えるということですか。
 - 水野) そうですね。
- ・萬屋) B案は、最初の案の赤瓦の伝統の、別に赤瓦は関係ないんですね。
 - 水野) そうですね。この赤瓦はこの下屋の小庇としてあるんです。だから出入りの高さでは1階の高さで、庇がかかっている。大屋根ではなくてそういうことで使う。
 - 萬屋) こんなところは見えませんか？
 - 水野) 見えません。全然見えません。
- ・丸谷) 大屋根も庇があるんですか。ここは庇ですか。
 - 水野) 庇です。

- ・水野) C案は空間的よりも加賀五彩、形態的なシンボルゾーンですね。
- ・新滝) これもそこは全部ガラスで抜けて見えるんですか、ホームから。
 - 水野) ここは中から見えます。新幹線ホームからまちが見える感じ。
- ・萬屋) 加賀五彩というけれども、これは何でできているのか。九谷焼ではないでしょう。
 - 水野) 何でやるかですね。金属に九谷焼の色をつけるか、焼物でやるかは出てません。とにかく色を出す。例えば金沢の駅のホームでいうと、九谷五彩、四彩なんですけど、紫とか黄色とか、グリーンのやつが4色あって、北陸新幹線そのものがブルーですね、あれをいれて五彩だということになって、要するに金属で加賀五彩をやっております。何でやるかは決まっていませんけれども、コストから言えば金属が一番やりやすい。焼物でやると…
 - 萬屋) できんわね、こんなでかい…
 - 水野) いや、だからピースにしてやるしかないですね。で、ここでついでですが、これが小松で出た3案です。小松もこの選択に入ります。(小松の説明) これはあわら温泉(説明)それから、南越、敦賀。
- ・新滝) 金沢駅って鼓門とガラスドームのイメージがすごく強くて駅舎自体あんまりそういえば見ていない。あの金沢駅の駅舎自体はどんなイメージなんですか。
 - 水野) これは金沢駅の3案出た時の絵です。この3案出る前に鼓門もドームもできてしまっていましたので、それをもう入れざるを得ない、絵として。それなしでは絵は描けない。ドームをつくった時に新幹線の高さが分かっていたから、それを越えようとしたわけです。それで、結局選ばれたのがこの真っすぐの案ではなくて、ドームのウェーブをこっちのウェーブにつけて、もうひとつウェーブをつくる。だから高いところがこのウェーブです。これだけずれているわけです。それはここと同じです。で、市民アンケートをとって投票したときも、これが1番になって、検討委員会もこれが1番になって、これに決定してJRに伝えたという経緯がございます。だからこういうふうにしちゃうと、水平にしちゃうと全然わからなかった。ウェーブにしたから駅舎の中心も見えて、全体的にもおもしろくなってという効果がありました。
- ・丸谷) この決定時期というのは、だいたい似たような時期ですか。
 - 水野) 多分来年の。今年度中に決めなきゃいけない。年度内に。
- ・鹿野) 3案並べてみると、A案は中央部に集中しているけれども、まわりが真っ白。B案というのは、駅舎全体が装飾されているようなイメージがある。市民アンケートをとってもそんなふうに伝わるのかなという気がする。
 - 水野) いやだから、これなかなか全体を理解するのは難しいですよ。こういう模型で、先ほどの図面だけだと分からないけれども、この320mの全体模型を見ながら、この平和堂さんのこの辺がどうなっているだとか、こっちはどうなっているとかいろいろ見ることができる。
 - 鹿野) 最初資料で見せて頂いた、ここを中心にA案B案C案と変えてあるじゃないですか。そうしたら紅殻格子の方がやっぱり加賀温泉的にはいいのかな、なんてちょっと思ったんですけど、いま先生にこうやって見てくださいねと、立たされることで、これが白っぽいなという感じ。さみしいなという感じ。
 - 水野) だから、場合によってこれがみんないいとなった場合に、ここはこっちがいいから壁面の色を変えるだけだから、やってくれとかね、そういう要望は出していいと思
っているんです。
 - 鹿野) 説明でこれとこれの折衷案はだめですよと言われたんで。

→水野) いや、折衷案はだめだけれどそれは、ここにこれを入れてとかそういう風になってしまうと崩れるけど、壁面の色具合を変えていくっていうのは、塗装色ですから、可能だと思います。

→鹿野) 実際には金沢駅もそうですけど、我々もドームなんか全然気が付いてなかったというのと一緒に、実際ここら辺に立った時に、ここには全部屋根もあってこういうふうになるわけですから、はたして駅の全容が見えるのか見えないのかというのはあるけれど、遠くから見たとき、車で走っているときに、中央だけがすごく・・・

→水野) まあ金沢の駅の場合広場がこうなっていますから、駅西側は在来線があって全然見えませんね。高岡の駅は少し色が違うと思います。あれは木食色って言って木の色、木造建築の瑞龍寺のあの色をずっとやっていますので、だから茶色っぽくずっといっている。あれは少し新幹線の駅舎のなかでは、特異な色をしているので、印象に残っている人はあるかと思います。

・新滝) 環境空間の方が目立つのですか。

→水野) 目立つようにすることもできるし、目立たないようにもできるし。

→新滝) 前に出ると金沢駅のように駅舎のイメージより、あれは大きさもあるんですけど、あちらのイメージの方が目に入ってくるので。

→水野) だから、これをバックにして前を演出するか、これとこれで協調するか。あるいはこれを殺してこれだけ出すか、というのはこれからの皆さんの選択だと思います。

・上口) 全体環境のこと言われたんで、私 40 年前に北鉄の中原局長と話した時は、金沢、加賀温泉駅、福井と、ここでは白山がざっと見えるからその駅だよという夢構想をあの時抱いた。彼が言う様に、ここから振り返って駅やというんじゃないし、出た時の印象の全体環境を本当に真剣に考えないと、この人ら市役所のこれじゃないしに、あっていいんかとも将来考えないかんし、それとこの表面だけくらいはふさわしい、何を整備するとか、加賀温泉にきたよということを含めると、観音さん見ますよね、それがいいのかどうか。本当にそれ真剣に考えないと、将来の関係。

→新滝) この前の検討委員会で、ここに来ると今度の 17m の高さだと、観音さん隠れちゃうんです。隠れるというか

→水野) ほとんど見えない。

→新滝) 頭だけ見える。

→上口) 首から上くらいは見える。

→水野) ただどこまであれが保たれているかですよね。大阪まで開通のころにはなくなっているかもしれないし。20 年経つと。ちょっと ロングレンジ に考えてもいいと思います、あの辺は。

・鹿野) 新幹線がついて降りたその窓からは白山は見えないんですね。

→水野) はい、あのレベルの高さは見えません。

→鹿野) だって前の道路走ると車の中からすごく綺麗に見えるもんですから。

4. 駅舎デザイン3案の検討

- ・水野) A案についてなにかご感想がありましたらお願いします。ちょっとこれ私が気になった額縁みたいになってますね。この額縁は外したほうがいいんじゃないか。なんとなく、ここだけという。先ほどもおっしゃっていましたが、真ん中だけ一生懸命やってあとは何もしていないじゃないかと思わせるのは。ひとつはまわりの色もありますけども、この強い額縁が、あってここだけという感じが。どうですか。
- ・上口) このデザイナーは。
 - 中野) J R西日本コンサルタントです。
 - 上口) ですがそこでどういう方がどう、ひとりの人がこれ形になったらその辺は。
 - 真田) それはないです。担当者はいますけど、あくまでJ R西日本コンサルタントが3駅、加賀温泉駅と南越と敦賀がJ R西日本がとりまして、小松はJ R東日本コンサルタンツが請け負って、その中で社内で3案を出したということで、匿名性みたいなものはないです。
 - 上口) 会議なんかでも非常に疑問なんですけれども、やっぱり後世に失敗したとか成功したとか、これは責任もって私がつくったということが、後世に本当は残るのが正しいと思うんです。だからああでもないこうでもない素人が言うて、あれするくらいならお任せして、そんできちっとほんとうにあれすればいい。ただしこんな意見を付度して頂いて、消化して、こう出していく、そんな会議の計画かもしれませんが。なんかいまひとつこの会議のやり方はねえ。やったということだけほしいのか、我々はそれ責任もった格好でそういう人に任せればいいのか、決して私らなんかびしょとなんか出た場合に、例えば将来国立競技場、あんな風にやられた後世にあの人がよかったか悪かったか、責任は全部とられる建築の人ですから。みんな先生じゃないし。
 - 水野) だから、北陸新幹線、全部そういうシステムで対応していくということなんですけども、実際は、東北新幹線も山陽新幹線も九州新幹線もみんなそういうシステムでおりまして、だから新幹線の駅舎システムというのは、個人名は全然出てこない。
 - 上口) 100年、後世つかえれば使うほど、あれしてそして将来もしあれやったら、美術館になる場合も。駅のようにね。
 - 水野) 日本の環境社会の平等性っていうシステムの中で、他と差を付けられない。そういうなかでの、ことです、どれだけものを選んで、どれだけ修正させるかっていうのが地域のエネルギーみたいなところですね。
- ・鹿野) 最初の委員会が始まった時に、駅舎のイメージって泡をどうするとかなんとかっていうデザインが出ていたでしょう。あれはもう全然そういう面になると関係なかったということですか。
 - 水野) いや、あれも出しながら、そう言っている議論を、J Rは知っています。だからJ Rは加賀温泉駅では、なんとか温泉というのを全部3案とも温泉に近いテーマで出てきています。他の駅、例えば小松とかそういうことに全然こだわってない。あわらもそうです。私が出した効果は、そこで出ているというふうに思っていますけど。ただ第4回検討委員会で駅前広場のその環境空間については決めませんと言ったのは、その後これが出てきてから、決めればよかったので。だからかなり影響は受けているように思います。他の駅に比べてちょっと特殊な形がいっぱい出てきているから。それがいい方にでているか、悪い方にでているのかはこれから。先ほどの赤瓦の小庇はここじゃなくてこれですね、ここから入っていくわけです。その玄関のところです。これもあんまり高いと、瓦が見えないですね。
- ・古場田) 額縁が施設全体を小さく見せている感じ。300m以上ある長さみたいなものが生きていないかなど。先ほど折衷案もありかなというようなこともおっしゃられた。横方向を

もうちょっと強調したような表面の色彩とか、あるいは格子をもっと左右に伸ばしていくとかっていうことも可能性としてはあるのかな。モチーフとしてはそんなに、悪くないと思いますので、メインエントランスを出た時の風景として、丁度向かいにアートギャラリーがあるわけなんですけども、そこにも同じようなモチーフをいれるとか。それから左手側にもアビオシティがありますので、そういったところにも同じモチーフで装飾を施してやると、一体感のある大きなスペースとして感じることもできるのではないかなと思う。

→水野) そういう意味でこのデザインをいじるとすればいろいろありますね、まだ。例えばこの額縁をやめて、上だけ残して上を伸ばして、左右をとっちゃうだけでもずいぶんすっと横へ水平線が出てくる。そういう風なこともあるかなと思います。

・鹿野) あのデザインはよくわからないけど、絵だけみた印象からするとA案は非常に平べったいようなイメージ。B案になると凹凸があるように思う。それは実際にそういう感じなんですか。それがさっき先生がおっしゃった額縁みたいな。

→水野) A案は平面的な、のぺっとしたデザインになると思います。それに対してこれは完全に面を変えていますので、大きな立体的な案になろうかなと思います。

→萬谷) 新幹線のホームから、その真ん中のガラスだと正面が見えるわけですよね。

→水野) そうです。人間の目の高さだとどこからでも見えると思いますけど、新幹線の座席はすこし低いですね。人間の立っているより。だから、新幹線の座席からみえるのはこの辺の町まで見えるかどうかはちょっとわかりません。

→鹿野) ホームというか真ん中のガラスのあそこから、白山とかは見えるのか

→水野) あの高さから言ったら見えませんね。

→鹿野) 平和堂の正面の切れているところからは多分目の前に病院が見える。

→水野) 今度は病院もだいぶ大きくなりましたので、白山は見えない。

→鹿野) 美術館は見える。

→竹内) 美術館の壁面も変えていくと一体感がでる。

・長谷川) B案の建物は個性がすごく強い。骨格がはっきりしていて。個性が強いのでこれを持っていくとすると、アビオと美術館と、関連してつないでいかないと合わないような気がする。周りの建物も柄をこんなのにしていくか、なにか工夫がいる。そうすると、そんなに強く感じないし、すごくいい雰囲気になるかなど。

→眞田) 少し今の環境とは違うエレメントが入ってくることは間違いないですね。

→古場田) 真ん中の大きな屋根、それが内部空間とか非常に変化が大きくて、内装が変わっていくような予感がするけど、そういったモチーフを周りに展開するのはまず難しいと思う。もしつくったとしても、ハリボテ感が強い構造物になるんじゃないかなと思う。

・上口) JRの方に考えてと言っておきますけど、市長が行って説得されたと思いますけど、中の機能性、我々かなり多くの観光のお客さんが利用されている大事な駅ですから、混雑ならんようにしっかりしてほしい。市長が行かれて、私市長のインタビューも聞いたんですけども、そのことだけがちょっと思い出したので。

・水野) 敦賀まで新幹線が通った時に、サンダーバードとか、しらさぎはとおっているのか。在来線と新幹線と平行に走らせませんね。そうすると福井でしらさぎの乗り換えとか、敦賀でとか。

→上口) それを受け入れることも含めた構想なのか、あるかどうか私ちょっとね

→水野) そうすると、加賀温泉に来られるお客さんは、ほとんど新幹線で来るということですね。在来線で来ることはないですね。

→複数) そんなこともない。

→萬屋) 金沢とか名古屋から来る人は、北陸新幹線が敦賀まで開業したら、新幹線に乗ってみたいというニーズがあると思う。敦賀まで大阪からきて、敦賀で新幹線に乗ると。短い時間でも。

→水野) それは多いと思うんですけど、在来線で来る人は。

→新滝) I R ですね。

→鹿野) 実際は金沢と加賀温泉の間の移動はどうなるかっていうことの方を検討しておかないといけない。ちょっと不安を感じているのは、東京から北陸新幹線終点金沢駅というのがすごく実際のニーズもあるしいと思うけど、今度かがやきが東京発敦賀終点になる。全便そうなってくればいいけど、下手したら金沢停まりしかでてこなくなるとか、それから、東のお客様が一旦金沢で先に降りて、今みたいに加賀温泉までお泊りになるときに、金沢からもう一回新幹線乗りますかね。

- ・小中出) 環境空間というのは我々がある程度、イニシアティブを持ってやれば、先生がおっしゃたように環境空間をやるのか、あるいは新幹線の駅舎はバックとさせるのか、あるいはそれを際立たせるのか、そういう話もありますよね。それで結構デザインがかなりこういう風だと、環境空間のデザインもある程度引っ張られるのかなど。環境空間というのはここで結構練れるのかという気がしますので、その辺の所、ある程度駅舎が決まってしまうと。駅舎のデザインの押し出しが強いと、環境空間というのはなんとなく、その重なることになってしまうし、金沢の鼓門みたいに、がっつやれる予算の問題もあるんですけど、であれば駅舎はある程度おとなしいデザインでもいいのかなという気がする。それのところはどういう風に。

→水野) 順序としては駅舎を決めて環境空間を合わせるというふうにしたい。いま事務局と打ち合わせはしている。この大きさは 320m あってずっとありますので、非常に強い。金沢の場合は大きいビルで、空間を区切られたあの中の勝負ですから、あの場にポンと置いても十分環境空間のほうが勝ってしまうことができるけど、加賀温泉の駅の場合は多分そうではなくて、ホームの方が強いだろうと思う。それと対抗するような強さを環境空間に作ろうというものひとつの手だと思います。両方強くあるというのがあってもいいし、それをどっちで選ぶかは、みんなで決めたいと思います。

- ・水野) ではC案、これはいかがですか。これはあわら温泉にも似たのがありましたけども。
- ・古場田) 五彩の響きがいい。いろんなところに使われるし、同じように五彩で市のイメージ付けをしようとしても影響はないけど、能美市が同じような色使いでやろうとしている。小松市もこういった色彩がある。それから金沢駅に関しては五彩といいますけど、あれは加賀友禅の五彩を意識したもので、人間ってなかなか5色を認識するのは非常に難しく、2色か3色くらいが精一杯でして、金沢の場合ですと、最後に残っているのは結局えんじ色とか、金色をアクセントにつかうとかそっちのほうでまとめ上げているようなかんじ。加賀の場合は、この五彩が適しているかどうかよく分からないが、こういった風に使うのではなくて、舗装面のタイルであるとか、内装とか、そういったところで使っていくほうがおそらく、品質感とか5色の色使いもそうですし、焼物という品質感、山中の挽物とか、漆とかそういったものたくさんありますけど、内装のほうでちりばめて、印象付ける方がいいように感じる。
- 長谷川) 合わない。国旗かこいのぼりみたい。これはあんまりよくない。なんであんな大きな五彩がいるのか。今言われたように、静かに分かるようにしていかないとダメ。
- 萬谷) 色を塗った金属じゃ、九谷のイメージにはならない。とってつけたような感じ。看板を張り付けたような感じになるんじゃないか。

→上口) 古九谷、山中の挽物もいいけど、木といわれるものを、漆とか木から生み出されたものをそういうものがなんらかの恰好で、単にこんなまるい挽物をはっつけるのではなく、それをこのなかで、意外なところでいかしてもらえるとという意味でないといかんと思う。木を使うとやわらかいようにみえますから。古九谷と九谷は違いますが、いずれにしても九谷の里という象徴をなんらかのところに入れればいいと思います。その辺はお任せ。なんらかの方法で表現してもらおう。

→水野) 金沢駅で石川県の伝統工芸を使う提案をしてデザインをしたときに、工芸とは手でやる大きさがいいので、建築的に混在しちゃうと、なかなか似合わない。各九谷も輪島もこのくらいの幅に柱の中に、入れていったのと、もう一つは身近なとことで、お椀の大きさ、お皿の大きさでみんな見せようということを考えて、だーんというのをやめちゃった。それが今ちゃんと本物だというふうに理解されていて、偽物で大きくしたのではなくて、本物が並んでいるという、ことができた。ですからこれをもって九谷というのはなかなかしんどいかなという感じはする。やっぱり手のやる大きさがあって。

- ・水野) 以上ABC案みていったんですが、そろそろ各委員の方からひとりずつ感想を頂きたいと思います。
- ・古場田) ABCそれぞれいい部分もあるし、ちょっとどうかなというのもあると。折衷案がどの辺まで、認められるかというのが。感想はA案をベースにして 320mを生かしたような、あるいは周辺の空間を生かしたような、感じでまとめてくれたら。また木の雰囲気だったり焼物の雰囲気だったりそういったものはまた別の形で生かして。それから環境空間がどういうものになるかこれからの議論になりますけども、駅舎をひきたたせるのか、それよりインパクトのあるものするのか非常に迷うところではあるんですけども、同時に考えなければいけないのかなという風にも思います。
- ・師池) 3案それぞれいいと思うけど、決め手に欠ける。A案が最初に新聞の報道で見た時に、紅殻が素敵と思ったけれど、全体的に見るとちょっとさみしい。でもこれに見慣れてくるとB案とかが、320m全部に対して、濃い色を使うというのもちょっと思ったりするので、私としてはA案になにかもうちょっと色を付けて、そこまで圧迫感はないけれど、もうちょっとなんかという感じがいいと思う。A案の1箇所だけというのは、あとの2箇所の環境づくりとかでいくらでもものすごい雰囲気が出せるという風に可能性があるので、それも手だなとは思いますが。
- ・井野上) JRさんがテーマごとに出されたABC案で、A案の格子が小松っぽいかなというイメージ。B案かC案かと思ったときに、C案は世代に残る古九谷でいいかなと思ったけど、橋立重伝建とかも全部切妻屋根なので、テーマとデザイン一致している、加賀らしさはB案じゃないかなと感じました。
- ・新滝) 3つそれぞれコンセプトが練られていると思うけど、ひとつにというのは今なかなかなんですが、C案については九谷の五彩をモチーフにというのは分かるけど、取って付けたというか、九谷焼の素材感も伝えづらいと思うので。A案もしくはB案とは思いますが、平和堂さんの屋根もスパニッシュ？山形になっている。こっちもそういうふうにつくってしまおうと、あそこ一体で見るとどうい風映るのかなというのが、この絵だけでは分からない。なんとなくそう考えるとA案の方が落ち着いた感じで、いいのかと。先生が言われた今は額縁として見えている部分を、両サイドに広げて全体に流していく。これで見ると左の方がかなり、タクシーや乗用車のところもそういう空間になっているので、どうなのかなとは思。かなりべたつきている。A案の方だとまったくもうそういう空気もなくなる。
- ・小中出) 環境空間の話をしてしまったけれども、どうしてもまるいというのが頭にあって、それが後ろの資料を見てもそういう資料が出ていましたので、それをみるとどうしても合間にださないほうがいいのかと思ったんですけども、ちょっと評判は悪いですけど、僕はC案でもいいのかなと思っています。九谷焼というのは世界に通じるものなので、こういう風な色合いっていうのが、他を見てもこんなに色をつかっている案はない。そこで

300mのなかで、ある程度切り込みを入れているという感じで、そのスケールの中でリズム感というか、長い間延びする空間を切ってくれるというのもどうなんだろう。これだといろいろな環境空間のデザインに対する選択肢が増えてくるのかなという気がする。

- ・**宇野**) A案についてはサイドの広がりがない。B案については模型でみるとサイドの広がりがある、屋根の方も変化があったりして。凹凸は模型ではなくてイラストというかパースではあるのでその辺がどうなるか分からない。色合いとか駅の中に降りた人の明るさとかそういうものも入ってくるんじゃないかと思います。そういう印象です。C案については、最初絵を見た時にぱっと見たときに加賀温泉駅と分かる方がいいのであれば、そういうもの選択肢としてあるのかなという思い。今日皆さんのご意見を聞くとあんまりよくないと言われて、私もちょっと市民の皆さんはどう思われているのかなという思いです。確認をしたいことがあって、北側から見た場合というのは今回、提示されていないですけども、そういうものはどうなるのかということと、3ページの絵を見ていますと、駅舎の広場からお客さんが出入りする場所というのがエントランス空間のところで出入りすることになる。でもパースをみるとそんな感じではなくて、一番駅舎の幅が広いところから出入りするような絵にも見える。駅の中身の配置と、出入口がどこになるか。エントランス空間も絵が防いで、そこから出入することになるのか。その辺がちょっとどうなるのかとちょっと気になるところ。

→**水野**) エントランスは小庇のあるここだと思います。

→**宇野**) それ絵で言うと、改札の構内になってしまうような。

→**水野**) 少し違う。その辺はまだ決まってない所。その辺の扱いを含めて、A案B案C案どれが選ばれても、少しこちらと交渉しながら、修正をお願いするということがいくらあると思う。大きくはNOといわれるんですが、基本的なこととか、そういうことを根拠にして修正をお願いすることはしたい。今のご指摘は大事な所です。

- ・**長谷川**) A案とB案と折衷していくといいかなと思う。折衷はないというけど、雰囲気の問題。Bだけでは色味が強いから周りの環境を考えないとよくならないし、Aの場合は向かって左が弱いので、この部分を一工夫やね。形の上でも言えるし、色の面でも言える、というのは修正できるんじゃないかね。そんなことを考えますし、C案のこの看板のような九谷のイメージ、これはどうしても出せないと思う。難しいと思う。ですから、先ほど先生がおっしゃたように、工芸っていうのはやっぱり手に触ってみるもの。だからこの大きな看板、これは周りの環境と合わせてみたら合わない。もっともっと建物のなかでそれを出すことができる。木の物とか。焼物の白とか。そんなイメージの中にもって行ってほしい。そしてもうひとつ言えるのは、B案のいいところは、伝統集落と、背景の大きな山、自然。これと包んだ、そこから入ってきた駅というのは、私は素晴らしいんじゃないかと。だからB案をこよなく愛するんやけども、それだけがベターではなくて、周りの関係でひとつあるのかなと。

→**水野**) いまおっしゃったなかで今までの金沢の駅の事例でいいますと、駅の構内に木を使ってくれと、これはなかなか通って、上越も使っていますし、それから高岡も使っています。それは通っています。駅の中に伝統工芸品を使ってくれと、これは通らない。金沢はなぜ通っているかと言うと、それは市と県が金だしている。全部。JRじゃなくて、市と県がやりますということでやっているわけです。オオイシ先生の絵がありますけども、オオイシさんがやったと。あるいは県や市がやったと、いうことです。ですからその部分は空けておいて、そこにじゃああなた方入れなさいと、そういうことでした。ですからこちらからそう思ってこれ入れてくれと、それから永久にメンテナンスをやりませよという誓約書を書けば入れられるということです。この2点だけちょっと。たぶんそうでしょうね。今度の駅も、で、木を使うというのは、地方都市へ行くと九州新幹線もずいぶん増えていますので、今度の東海道新幹線の頃はもう有無を言わず全部ワンパターンでぱーっとつくっていて、コンクリートとガラスでつくってきちゃったけど、そういう意味で言うと、北陸新幹線は随分各駅の要望を取り入れて、地場産材を取り入れているとはいえます。その始まりは九州新幹線から。

・丸谷) B案とC案は、パッと見すごいインパクトが強いけど、やっぱり 10年20年と先のことを考えたら、やはりよりシンプルで、機能的であった方がいいかなという気がします。それでA案の額縁、これを少し弱くして、もうすこし横に格子を広げて、したら素敵かなという気はします。けれどもちょっとメンテナンスのことを考えたら、格子のところの間のお掃除を考えたら、蜘蛛の巣なんて一晩で張るんですよ。それを毎日毎日綺麗にしておくにはどうなんだろうか。 ちょっと思いました。

→水野) 格子はなかなかそういう意味ではガラスを綺麗にするのは大変ですよ。

→丸谷) 大変なんです。だからそれが綺麗にできるのだったら格子はいいかなと。ただ、汚れている様、メンテナンスできないようならば、違う方がいいかなと思います。

→水野) 格子とガラス面をうんと離してその中にメンテナンス通路がとれるようにしちゃうなんていうのも。格子からガラスを浮かしている。そんなようなことも技術的には可能ですけどね。ただそんなことをしてくれるのか。

・鹿野) ちょっとひとつ質問なんですけど、A案とB案のデッサンの、どこから出入りしたらいいのかと。これを見ているとここがへこんでいるように見える。実際は違うんですよ？ A案とB案のちょうど角のところ、黒くなってへこんでいて、それが屋根みたいになっているようなデザインに見えるんですけども、これは違うんですよ？

→水野) なかなかね、平面図と合っていないんです。

→鹿野) ですよ。この一体の、全体の図を見るとばっとなってますけど、この駅舎のセンターのところだけを集中的に描いているのは、くぼんでいて、私最初にこれを見た時に、出入口が正面から入ると、こう入ると両方あるのかなという風に見えたと。そういうのじゃないんですよ？そこを確認したほうがいいんじゃないか。私正直言いますと昔から、美術系はまったくダメなので、今も印象の意見を結構話しましたが、皆さんからいろんな意見が出ると、確かにアビオさんとのバランスがあったりとかしたのバランスとか今はお掃除のこととか。私は全然わからない。ただぱっとみた印象としては特に加賀温泉の場合の温泉文化であり、そういう和の部分という点で考えると、Aがいいかなと思っていた。でもセンターのみに力が入っていて、周りがあまりインパクトがないのでっていうのは思った一方でB案なんかを見ますと、横がずっと端まで行くと、この絵としてはインパクトはいいんですけど、じゃあそこ周りの環境、ビルとの環境とか全部を見た時に、なんとなく一瞬グランヴィア、京都駅を思い出したと。あれは真っ黒のままずっといきますよね。だからああいう感じになるのもどうなんだろうか。そういったところをいろいろ皆さん方の意見を取り入れながら改善されていくと、多分よくなるんじゃないかな。

→水野) これ多分、ここはずっと柱が見えているんじゃないか？高架の下は。蓋してない。多分、だから…こういふうになると思います。こっちはJRの電気室とか、機械関係の部屋がくるので、人が入ると思いますけど、こっちは何もないから、あっぱっぱ一になっているんじゃないかと思います。

→鹿野) 見えるは見える？

→水野) はい。在来線の方がちょろっと見えるかもですね。で、この辺のどこが綺麗にエントランスになるかは難しい。いずれにしろ、環境空間がここにきますので、これからストーンと突っ込むのがエントランスになると思います。

→鹿野) エントランスから左のところは案内所があったり。

→水野) レストランがあったり、売店があったりします。そちらの方に入っていきじゃない。

・萬谷) A案かB案がいいんじゃないかなと思います。B案の方がダイナミックさがあってぱっと、特にインパクトがある気がすることはする。どうなんか出来上がってみないと分からないし。あのA案で、紅殻格子は木でつくるんですかね？

→水野) 木でつくるか金属でつくるかちょっとわかりませんね。

→萬谷) 木でつくるようなイメージだと、それができるのか耐久性という問題もあると思う。木でやると、やさしさと言うか、温泉街にふさわしいような木のイメージでいいんじゃないかな。それと、額縁に入れたような形ではなくて、横の棒を取っちゃって、上の黒い屋根みたいなあれをずっと横まで全部伸ばすと連続して、さがってもいいんですけど、そうできたらいいかなと。それと、色が白ではなくて、今の紅殻にあったような色、あるいはできれば、予算的にどうかかわからないけど、横にある紅殻を連続的にもうちょっと増やしてもらおう。そうすれば連続的なイメージがあって、A案がいいのかなという風に思います。

→水野) 多分これで 10m越すんですよね。そうすると木でやれるかどうか。これで 6、7mありますので、できるのかなというのがありますね。

→萬谷) 金属に木みないなのを張り付けるとか、そんな感じやね。わからないけど。

- ・上口) 風雪を重ねるごとにいいものになっていくという。それから前の全体計画と、機能性だけはもっともっとよくせないかんかと思えます。これについては委員長先生にお任せしますから。いい格好であれば。いずれもなにか工夫されていることはわかっておりますから。
- ・竹内) 格子の掃除は大変やなど、ずっと綺麗にやっていければいいなと思えます。今、JR加賀の子会社が掃除をやっているが、結構今まで2週間に1回やっていたのを、減らして経費の削減しとるみたいやね。そういうことを考えると、掃除のしやすいというようなこと考えていかないと。個人的な意見は、縦格子をもう少し横に伸ばして、色を変えて、平和堂と美術館を含めて、一体感のあるような、雰囲気にするといいかなと思う。それをやれば、環境空間の施設が大体恰好的に考えていくと決まる。C案は、一回乗り降りすると絶対忘れない加賀温泉はこれやという風にイメージかなと。ヨーロッパみたい。
- ・水野) 今月 17 日に市民集会がある。市民にいろいろな意見をもらおう思う。アンケートを取りながら、市民の意見を集約したい。次の検討委員会でそれを決定していきたい。
- ・蜂谷) この3案が出る前に加賀市さんと鉄道運輸機構さんと話をした。3ページの全体の配置図なんですけど、前の検討委員会的时候も、中心がずれてエスカレーターの乗り降りだけが飛び出している。あきらかに出来上がったときにずれていますよと、いろんな話を鉄道運輸機構事務局の方としましたが、実際受けているのがJR西日本コンサルタントということに向うはまだ公表もできない段階、ましてや我々と協議をさせてほしいと、こういう模型をみせてということもまだ受け付けられない段階だったようです。絵を出すまで一切協議ができなかった。ですから、みなさんがおっしゃるようにならずに済むか、こちらは全然色がついていないじゃないかという状態にあるかと思えます。
それからこの環境空間、ちょうどここが広場の中心で、新幹線の入っていくコンコースが、丁度妻側の突き当り。面がずれていても今の向うから提案のパスのように、A案を見ると折れ曲がったところの薄暗いところ。あそこが都市施設になることも向こうはわかっていないというか、公表できないから描いてないし、そういうことでここに環境空間がつくとすくなくともバスヤタクシーのシェルターが15mの高さでぐるっとまわります。ですから足元はほとんど見えない、というような眼で見て頂けると。具体的に私はどの案がいいということは言わないが、例えばA案、みなさんおっしゃっているように額縁が強すぎて、全体が320mの広場に面していると、だから綺麗なリズム感で、縦格子で、いつていただけるか。ただ格子である以上、立体感はどうしてもでない。どうしても大きな屏風に見える。ですからむしろ環境空間は、屏風の前でやる骨董品のようなことが提案しやすい。B案は私が驚いたのは全国の新幹線駅で300mの長さを、みんな長さを活かしている。でもひとつひとつを分割して、家型が並んでいるようなそういうタイプはないので、非常に珍しいなと思った。しかしできた後どう見えるかというのは怖いところでもある。このような強い案の場合は環境空間も連動するような形を取らざるを得ない。C案、九谷五彩ですね。これは横方向を強調しつつ、色はこげ茶からグレーまででおとしているが、そこに5個の看板という言葉もありましたが、これの配

置の仕方では中心のズレは調整できます。ただ現実には焼物みたいなものでやっても、表の光のあたる部分はいいですが、ホーム側に入ったら巨大な壁ですよ。これをやるならば、色のところだけ合わせガラス、ガラスの技術で光を入れるガラスで、ああいう色に内側からも見える。モダンアートの、環境アートのような、そういう路線なんじゃないかと。どちらのイメージも現代風なのかなと思いました。A案もみなさん無難なようだとおっしゃいます。確かに和の縦格子というのは、20年30年40年経っても、どの時代でもこれは和だねというふうにみえます。ただ、昨今、金沢もこのあたりもそうでしょうか、駅前あたりのいろんな商店をみると、みんなあのデザイン。そういう平凡さもある。そういう場合環境空間でかなり特徴を出さないといけない。

5. 環境空間デザインの検討

- ・ 水野) 今のところ聞いているのは、集成材の木造構造でやりたい。白いところは布で、テントの。布と木がメイン、あとはガラス。テフロン膜、ガラスに。市民集会で意見が出てからこっちを検討して、検討委員会の意見としてこっちから発表するというにしていきたい。どれが選ばれるかということとここをどうしたらいいかということ。次の段階ですけど、一緒に考えていただきたい。
- ・ 萬谷) 下は抜けているんですね。
 - 水野) 抜けています。ガラスは入っている。インテリア化しています。
 - 新滝) いわゆる風がびゅーっとしたから
 - 水野) だからこの下はクローズです。インテリア化している。この面は外に接してはいますが、この内側にガラスを入れちゃって。
 - 新滝) 壁ができるということですね。
 - 水野) はい。
 - 新滝) だから、吹きさらしにはならない。
 - 水野) 今は考えていない。前はこれを大きくして、吹き曝しにしたが、大きいから風のない所もできる、風の通るところもできるというふうに考えていたが、全部風のない方が徹底していいのかなと、金沢駅は、大きさで風のあるところないところがあるが吹き曝しです。上越なんかはほとんどインテリア化している。
 - 新滝) 強風とかは結構大丈夫なんですか。
 - 水野) 大丈夫。
 - 新滝) ガラス系の布と木だとしたら。
 - 水野) 就学旅行生がいっぱいいたりしてたくさん座っている。こんな風景がどこにあるんだろう、ここで入りきらないとか、いろいろな風景を想像して、ここに出てきてもらってとか。加賀温泉駅のおもてなしがあるという、そのおもてなしをどう表現するか。駅として、どういうグラビアになったらいいかなと。金沢みたいにみんなで写真撮る、そういうふうになったらいいなど。
- ・ 新滝) 市民によく聞かれるが、観音さんの頭がどんなふうに見えるのか、分かれるとよい。多分近づけば見えないんでしょうけど。見えなきゃいけない、見せてはいけないという問題はあるんでしょうけども。
 - 水野) せいぜいこの辺から。あと、裏側の立面がまったく不明。

・長谷川) 新幹線はまだ開いてないけど、お客さんが駅のこちらに回るとは少ないけど、いい
展覧会をするとアビオ側をまわってすごく流れてくるようになった。今、山中漆器の90
周年蒔絵展やったらすごい人で大歓迎。

→水野) 今新幹線に乗ってくる若い女性たち、あるいは年金の人たちは美術館へ行くのが
ひとつの大事なブームですから。それから外からも展覧会が垣間見えるといい。

→長谷川) ロビーのところに何かひとつ中でやっていることを見せるようにガラス張りに
している。

・宇野) 屋根の大きさが前の検討会から狭くしたのはなぜか。

→水野) 前のときはもう少しイベントとかいろいろな団体が使うことを想定した。なかな
か立候補があまりなくて、あまり使われないかな、そうすると基本的に待合室的なお
おきさかなという形から縮小した。待合室ならちゃんと室内としてあげないと。室内
化することで縮小したということと、イベントとか市民広場として使うことがそれほ
どなさそう。

6. 眞田部長より、閉会の挨拶

今日は長時間にわたり真剣なご議論をいただき、ありがとうございました。今年度中にみなさん
のお力添えをいただきながら、まとめていきたい。私としては、出会いと別れ、思い出が宿る風景
になればと考えている。本日はどうもありがとうございました。